

☆30年にわたり「享保の改革」を推進し、大御所となっていた徳川吉宗が1751年になくなると、言語障害のあった9代将軍・徳川家重のもとで、側用人政治が復活した（この時の側用人は家重の言葉を唯一解することができる大岡忠光が務めた）。この9代将軍・徳川家重のこしやう小姓（世話係）を務めていたのが田沼意次であった。

たぬまおきつぐ  
田沼意次

10代将軍1 \_\_\_\_\_ のとき側用人へと取り立てられて、幕政を主導。さらに老中へと昇進し、側用人から正式に老中となった初の人物となった。10代将軍の側用人となった1767年ごろ～1786年の20年間を「田沼時代」とよぶ。

Q 1. 田沼政治の特徴は何？ [図表P. 194①]

A 1. \_\_\_\_\_ を重視する政策（重商主義）への転換。

1. 経済政策

①商人の活動を保護し、営業税（＝「2 \_\_\_\_\_ ・ \_\_\_\_\_」）を取り立てる。

Q 2. 効率よく税を徴収するため、彼が積極的に公認したものは何？ [図表P. 185①②]

A 2. \_\_\_\_\_

②幕府による3 \_\_\_\_\_ の拡充…重要品目の製造・売買を幕府でが座を結成し独占、利益を得る。

Q 3. 代表的な幕府直営の座は？ [P. 223②] A 3. \_\_\_\_\_ 座、 \_\_\_\_\_ 座、 \_\_\_\_\_ 座

③通貨政策

☆ついに田沼は、東日本と西日本の貨幣の一本化に手をつけた。

→ 4 \_\_\_\_\_ の発行 [図表P. 194①③]

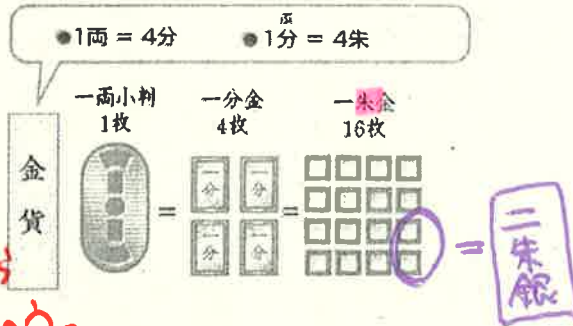
→ 裏面に「以南録5 \_\_\_\_\_ 片、換小判1両」の文字を刻む

【確認】江戸時代の金貨は「4進法」であった。具体的には…

Q 4. この貨幣のこれまでにない特徴とは？また、その狙いとは？

A 4. \_\_\_\_\_ の単位を採用した銀貨。

→ \_\_\_\_\_ による通貨統一を意図



【田沼失脚後の動向】

図P.194①③の解説を  
考えよう。

○田沼の発行した新貨幣は金と銀との相場変動で利益を上げていた6 \_\_\_\_\_ の猛反発を受け、また二朱銀鑄造による銀不足から起きた銀高金安を次の政権担当者・松平定信によって批判されるなどの逆風にあったが、その利便性は高く評価された。しかし、こののちも「二朱銀」「一朱銀」「一分銀」が発行されたものの、東西日本の完全な通貨統一は明治になるまで実現しなかった。

ここに書いてあるとおり、田沼意次は吉宗の子・家重の世話をする中で吉宗の享保の改革を近くで見えてきたのです。かなりの成果をあげた吉宗の改革を見てきた田沼の結論は、おそらく「吉宗がやり尽くしたことを繰り返しても成果は出ない。吉宗とは違う分野に注目しなければダメだ」というようなことではなかったかと思えます。

教科書P.223 27～P.224 2.9

または

図表P.194①(A)(B)

のどちらかをしてしつと見たり  
読んだりすれば穴埋めは  
ほぼできるといふ。

で、こゝへ ←